

多種多様な検査を行える点がマッチ。 ビューワ導入でデジタル化し 検査時間も短縮。



院長 山田 博愛 先生

F LEXAVISIONと ビューワ導入でデジタル化

フィルム保管場所に苦慮していたこともありFLEXAVISIONに買い替えると同時に島津のビューワ (SimCLINIC View/1.3M液晶モニタ) も導入しデジタル化しました。勤務医時代や当院の前装置も島津製で親しみもありましたが、寝台昇降を行える点が一つの大きな条件でした。デザインもきれいで、医療機器業者からの薦めもありました。営業担当者の熱心的で確かな対応も大きかったですね。

診 断能が向上。検査時間も短縮され 12時半までに検査終了

デジタル化に不安もありましたが、胃透視も今までの感覚と変わらず行え、ボタン操作もなめらかで以前よりずっと良くなっています。またコントラストや濃度の調整ができ見逃しが少なくなりました。先日も、刺さったガラスが残っている気がすると来院された患者さんを検査、コントラストを色々変更することで発見し大変感謝されました。また現象が不要になり患者さんへの説明までの時間がかなり短縮されました。従来はスタッフが多忙な場合は最短でも5分は現像待ちの状態でした。今では撮影後即、診察室のビューワに画像が送信されるので、患者さんには撮影後その場で診察室に来ていただいています。暗室での手探りの作業でスタッフにストレスを与えることもなくなりました。最近は患者さんが多い場合でも12時半までには診察を終えています。流れがスムーズになり、検査時間が早くなりました。



昇 降機能は価値あり

骨折など歩行が困難な患者さんの場合は、スタッフがステップを使って寝台に乗り無理な姿勢で移動を手伝っていたのですが、FLEXAVISIONの寝台昇降機能によりすいぶん楽になりました。昇降機能を搭載しない場合より投資費用はかかりますが、それだけの価値はありますね。

広 範囲な撮影に 半切CRカセット速写を使用

10件/日ほどの一般撮影検査をこの装置で行っています。胸部では半切CRカセット速写と管球の1.5m引き伸ばし機能を併用しています。半切CRカセット速写は、広範囲撮影が必要な泌尿器のKUB(結石造影)やDIPに使用することもあります。

近 接操作卓は さまざまな検査で活用

注腸検査では必ず近接操作卓を使いバリウムがある程度進むまで確認しています。神経根ブロックの範囲確認後にその部分へ造影剤を入れる場合や、異物を取る、骨折の整復を行いその場で確認してギブスをする時にも使っています。いろいろ使えるのでありがたいですね。

ビ ューワ導入で手間が省け、 患者さんへの説得力もアップ

画像の関心部位を囲んだり、文字を書き込んだり、計測も行えるので、特に腰椎の場合に椎間が狭くなっていることを具体的に説明できます。骨折の有無を確認する際、拡大表示し患者さんに説明すると説得力がありますね。また健診では、撮影画像をjpg画像に変換し出力したものをレポートに同封しています。フィルムをデジカメで撮影していた以前に比べ手間が省け重宝しています。



総 合的に 検査できる点がマッチ

当院の診療科目は内科・小児科・外科・整形外科ですが、FLEXAVISIONは総合的にいろいろなことができる点がいいですね。この地で開業したのは総合医としてさまざまな患者さんを受け入れたかったためで、その点がマッチしています。

導入を
お考えの先生への
一言

万能で、さまざまな検査において簡便な操作で十分な画像が得られる。地方で当院のような総合的な医院開業をお考えの場合に特にいいと思います。